

まちを愛し、まちを元気に

ナバリスト 11

津田 志穂 さん | ナバリスタホッケークラブ コーチ

つだ・しほ ●「ホッケーの町」島根県奥出雲町出身。小学4年生からホッケーを始め、大学卒業後には日本代表としてロンドン五輪やワールドカップなどで活躍。現在は市職員として働きながら、平日の夜や休日にナバリスタホッケークラブで小中学生にホッケーを教えている。



三重クラブ成年女子チームのFWとして
現在もホッケーを楽しんでいる



キッズクラス (小学1~3年) に
ホッケーの楽しさを教えている



オリンピックやワールド
カップなどで日本代表に

名張のホッケーを盛り上げて、地域の人に恩返ししたい

「姉がやっていたから」という単純な理由で始めたホッケーでしたが、ボールを打てた快感に、いつしかのめりこんでいました。大変さよりも面白さが勝って、気づけば常にホッケーのことを考えている人生でした。

夢がなくなって出場したロンドン五輪では、観客の多さに驚きました。歓声で選手同士の声が聞こえないくらい満員。日本では味わえない会場の雰囲気にも、とても楽しくて気持ちが高まりましたね。ホッケーが人気なヨーロッパと違って、日本ではまだまだマイナースポーツ。ホッケーの面白さをたくさんの人に広めていきたいと強く思いました。

三重県ホッケー協会から声がかかり、監督兼選手として三重クラブに所属し名張へ。人の温かさに触れて、名張が大好きになりました。「頑張ってるな！」と声をかけてくれたり、練習を見に来てくれたりと、地域の人の応援に、いつも支えられました。

現在は、名張でホッケーの輪を広げたいという思いで、子どもたちにホッケーを教えています。名張でホッケーが活発になることが、支えてくれた地域の人への恩返しになると思うんです。「ホッケーのまちなバリ」として、もっと盛り上げていきたいですね。

今教えている子どもたちが、大学までホッケーを続けて、名張に戻ってきてくれることが密かな夢。大きくなった教え子とホッケーをプレーできたら最高ですね。

編集後記

広報コンクルールの入選を、市民の皆さんにも喜んでいただけたのがすごく嬉しかったです。取材など紙面づくりにご協力いただける皆さんあっての名張の広報紙。今後ともよろしく願います(たか)

市民センターの組紐体験で伊賀組紐のキーホルダーを作り、地元の名産を知った小学生の私。こんな素敵な物を作ってるんだ！と誇らしく思ったことを取材の中で思い出しました(くま)

全く知らないホッケーをこれから調べて挑んだ取材。実際に試合を見せてもらうと、映像では味わえないスピード感に興奮しました。ホッケーの真の面白さをぜひ現地で体感してみてください！(はる)

「二十歳のつどい」に行くと知り合いがちらほら。「この子ももう二十歳なのか！」とビックリ。既に社会人になる人も、夢に向かって頑張ってください！(こ)



名張のひと・活動

